

水生生物観察の講習会への講師の派遣

本年6月3日に京都府綾部市にある府立綾部高等学校東分校で開催された水生生物観察の講習会に、等センターから講師（環境技術部 次長 富平 純）を派遣し、水生生物採取と分類等の講義を行いました。

当日は、大阪府立大学教授の谷田一三先生のご指導の補助と一部講義を行いました。参加者は農芸化学科1年生32名（環境化学基礎講座）及び水生生物のプロジェクト活動を行っている3年生7名です。

午後1時半に農芸化学科1年生と校内の実験室で挨拶と採取簡単な説明及び注意を行った後、学校の直ぐ横を流れる由良川に採取に出かけました。由良川は5月29日に通過した台風2号の影響が残ってかなり増水して、濁りもありました。担当の近本教諭のお話では、29日には洪水の警戒水位くらいになったとのこと。川の本流には入れませんので、岸のヨシ帯を流れる部分で網を使って約30分の採取。最初は生物が見つかるたびにキャアキャア言っていた子達も、だんだん真剣になり、新しい生物を捕まえるとさっそく谷田先生や私を呼んで「これはなに?」。こちらは呼ばれる回数が段々増えて忙しいこと。採取を終えて、ごみなどに混ざった生物を教室へ藻って帰り、バットに開けてピンセットを使いながら透明容器に集めていきます。その後、形から同じと思われる種ごとに分け、水生生物の図説を見ながら名前を調べていきました。全1時間半の講義でしたので、詳しいところまで見ることはできませんでしたが、一応分類を終了し、20種くらいの生物がいることがわかりました。生徒からは「川の中にこんなに生物がいるとは思わなかった」、「楽しかった」などの感想が寄せられました。

3時からプロジェクト活動の生徒達が、1年生が取って、粗分類した生物を、図鑑なども使いさらに詳しく分類。検索は初めてという生徒さんも多く、どの部分を見るかを谷田先生と手取足取りで教えていくと、コツを覚えてトンボを専門で見だす生徒さんも現れ、4時半までの予定を30分オーバーし5時に終了。終了後も残って観察するそうです。

生物多様性の危機が言われている今日、子供達が生物に興味を持ってくれることを願って、帰路に付きました。

採取風景（京都府綾部市 由良川）
帽子を被った手前が谷田先生、奥が筆者

